

料金別納郵便

2024

12 / 15

SUNDAY

11:00~15:30

開催会場

尚絅学院大学

図工・美術で どんな力が身につくの？

第5回 図工・美術セミナー in 東北

図画工作科・美術科。時間数も減少の一途をたどっている教科ですが、造形教育は子どもたちが成長していく過程で抜け落ちてはならない学びの「栄養素」が詰まった大事な機会であるはずです。私たちは、図画工作科・美術科の授業を通じて子どもたちの中にどんなものを残せているのでしょうか。

私たちが目指すのは、子どもたちの多面的な「力」を育むことです。本学造形センターでは、セミナー事業を通じて、校種、世代、お立場を越えて、造形教育の本質と向き合い考えを深め合える場をつくってまいりました。今回はその第5回目となります。

本セミナーでは、ご参加者の皆さま同士の対話から生まれるものを大切にしております。ぜひ、ご経験や知恵、日頃のお考えや思い、あるいは等身大のお悩みをもち寄っていただきたく思います。

授業改善にお役立ていただけるような機会、造形教育への情熱をさらに高め合える機会となりましたら幸いです。

皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。

主催：公益財団法人 日本文化教育振興財団

共催：尚絅学院大学 造形センター

◎お問合せ先

尚絅学院大学 心理・教育学群
子ども学類 学類長 教授 相馬 亮

〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1

☎ 022-381-3368 ✉ r_souma@shokei.ac.jp



プログラム

- 10:30～11:00
- 11:00～11:10
- 11:10～12:10

受付 開会・はじめに

実践発表

- 小学校 加賀谷 瀬里菜先生（宮城県石巻市立稲井小学校 教諭）
- 中学校 原 昌弥先生（青森県弘前市立第三中学校 教諭）

発表者自評・質疑応答

実践発表者お二人による発表内容についての自評と質疑応答を行います。発表者ご参加の方々の双方向のやり取りの中で、観点を広げ、深めていただき、続くグループワークにつなげていきます。

- 12:10～12:40

昼食休憩

近くに飲食店がないため、昼食はあらかじめご用意いただくか、お弁当（1,000円）をお申込ください（下の参加お申込フォームより）。

- 12:40～13:30

グループワーク

グループに分かれ、校種や世代、お立場を越えて、意見交流を行います。造形教育でどんな力が育てられるのか、授業はどのように改善していけばいいのかなど、日頃のお考えやお悩みなどを一緒に共有し合い、大切にしたい造形教育の本質に迫っていきます。

- 13:30～14:50

- 移動（5分）

グループ発表

グループワークで生まれた気づきやアイデア、思いなどを全体で共有し合います。明日に生きる視点をたくさんもち帰っていただけることを願っています。

- 14:55～15:15

- 15:15～15:30

総括・閉会

対象

教職員、大学・大学院の学生

定員

先着50名

参加費

1,000円

お弁当をご注文される方：別途1,000円いただきます。

会場案内

尚絅学院大学

〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1

周辺地図やアクセスの詳細につきましては
右のコードよりご確認ください。



お申込方法

右のコードを読み取っていただきますと、お申込フォームが表示されます。必要事項をご記入の上、ご送信ください。



【締切】12/12（木）

尚絅学院大学造形センターのご紹介

東北地方では、造形教育に関する学びの場が少ないという現状があります。

そのため、このようなセミナーの場を提供することで、本学での教育研究成果を発信し、より高度な教育研究を目指したいと考えております。

本セミナーは2018年度を始めとし、続く2019年度に第2回セミナーを開催。新型コロナウイルス感染症の拡大により、セミナーの実施を見送る中では、外部講師によるご講演動画や本センター長・副センター長による対談動画のオンデマンド配信をいたしました。2022年度に第3回セミナーとして対面形式での実施を再開、昨年度に第4回のセミナーを開催しております。

今後も、本センターが「東北の造形教育の要」となり、その使命を果たすことができるよう、尽力いたします。

センター長
相馬 亮 教授



副センター長
天形 健 客員教授



本セミナーの過去の開催風景



2023年度

ご参加いただいた方の声

※第4回（2023年度）セミナーのアンケートより

さまざまな校種、職種を越えて、「学び」を考えられたほか、日ごろの悩みや取り組みを共有でき、とても有意義な時間でした。

「身につく力」、今後も深掘りしたいです。そして、その力が何かに変化、進化していくと考えると、わくわくがとまりません。